

秋田駒ヶ岳

概況

火山活動は穏やかに経過しました。

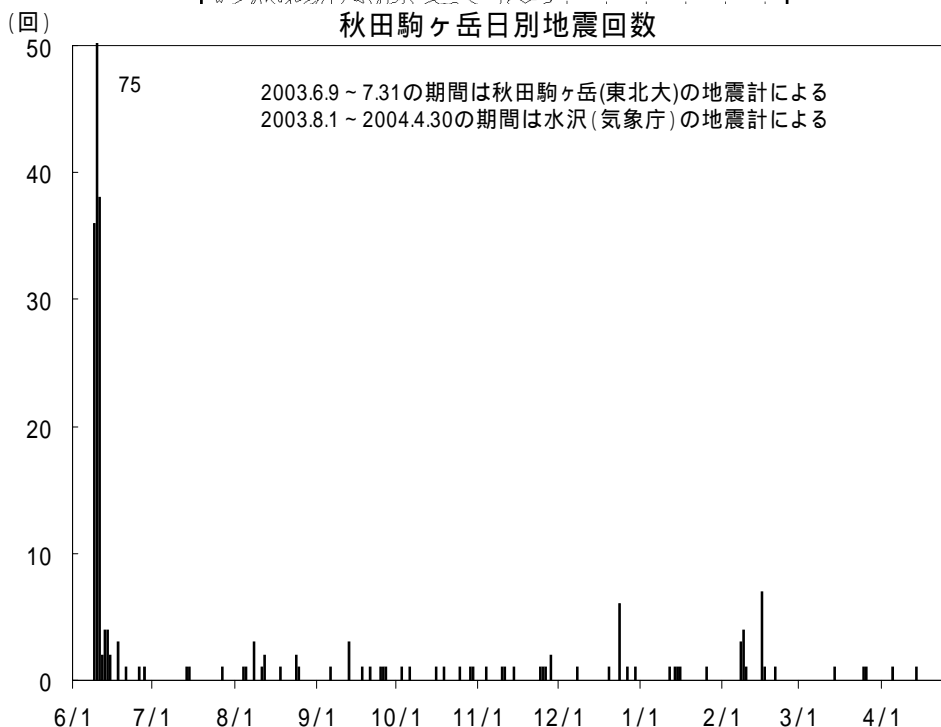
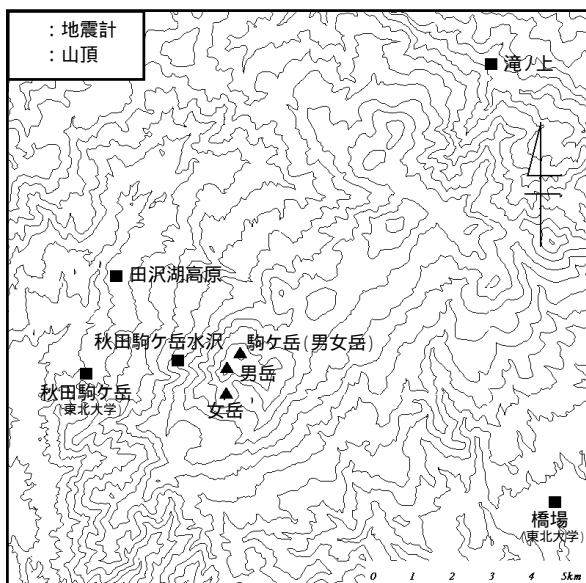
地震活動の状況

地震回数は一日当たり0～1回、月合計でも3回(3月5回)と、引き続き低調な状態が続いています。また、精度良く震源が求まる規模の地震はありませんでした。

火山性微動は観測されませんでした。

噴気活動等の状況

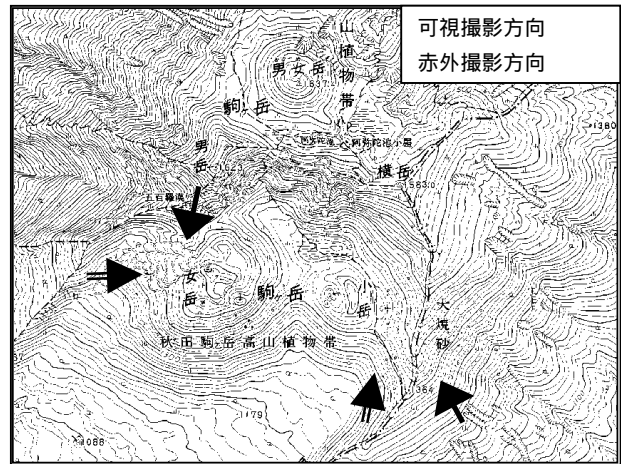
3月15日、東北地方整備局の協力により行なった上空からの観測では、女岳山頂付近(1970年噴火)で高さ5mの噴気を観測しました。これは、昨年6月にセンターが実施した現地観測時の噴気の高さ3mと同程度であり、通常時の噴気の高さです。また、同時に行なった赤外線カメラによる観測から、地熱地帯の拡大などは見られませんでした。



2004年3月15日東北地方整備局ヘリによる機上観測結果(秋田駒ヶ岳)

大焼砂

秋田駒ヶ岳の大焼砂(火口外輪の東側稜線)は砂礫地帯で、早春に斜面の雪解け・噴気確認等の発見者通報が度々あります(赤印)。今回の観測でも尾根から西斜面にかけて広範囲にわたり着雪していない領域が見られました。赤外熱映像観測でも広く高温部が映し出されていますが、1990年の現地観測では高温域はみられませんでした。



秋田駒ヶ岳撮影方向



可視画像



赤外画像

(2004年3月15日 東北地方整備局ヘリによる撮影)

女岳山頂付近

女岳頂上の北約100mの旧火口縁では現在も噴気活動が確認されています(赤印)。ここは1970年噴火以前から噴気活動が確認されている場所であり、2003年6月に実施した現地観測でも高さ2~3m、噴気温度86を観測しています。

今回の観測でも高さ約5mの噴気が観測されました。赤外熱映像観測からも女岳山頂部の地温の高い領域が確認されました。



可視画像



赤外画像

(2004年3月15日 東北地方整備局ヘリによる撮影)